

ハイドン盤を聴く (2)(HP 収載)
ー最新アナログシステムでの試聴(2)ー

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および [ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディのアナログ盤を聴き直してきました。今回も、ハイドン盤を聴いてみることにしました。

2. ハイドンのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、ハイドンのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次のハイドン盤を聴いていきます

SEON MLG1006

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン 弦楽 4 重奏曲ハ長調
弦楽 4 重奏曲ニ長調

エステルハーゼ弦楽四重奏団

ACCENT OX-1213-AG

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン 六つの三重奏曲第 1 番ニ長調
六つの三重奏曲第 2 番ト長調
六つの三重奏曲第 3 番ハ長調
六つの三重奏曲第 4 番ト長調
六つの三重奏曲第 5 番イ長調
六つの三重奏曲第 6 番ニ長調

バルトルド・クイケン (フルートトラヴェルソ)

ジギスヴァルト・クイケン (ヴァイオリン)

ヴィーラント・クイケン (チェロ)

CAMERATA CMT-1052

ミカエル・ハイドン

ヴィオラチェロコントラバスのための

ディヴェルティメント変ホ長調

ハンブルクフィルハーモニーゾリステン

3. ハイドンのアナログ盤の試聴結果

SEON のハイドンの弦楽 4 重奏曲は、バッハ盤を聴く(2)で報告した SEON 盤と同じということで、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみましたが、違和感はありません。エステルハージ弦楽四重奏団は、古楽器のグループで、ノンヴィブラートの弦楽の落ち着いた音色の演奏です。

ACCENT のハイドンの六つの三重奏曲は、バッハ盤を聴く(1)で報告した ACCENT 盤と同じということで、RIAA、N、第 4 時定数 High で聴いてみましたが、違和感はありません。フルートトラヴェルソのふくよかな音色とガット弦のノンヴィブラートのヴァイオリンとチェロの落ち着いた音色の対比で展開する優雅な演奏です。

CAMERATA のミカエル・ハイドンのディヴェルティメントは、バッハ盤を聴く(3)で報告した CAMERATA 盤と同じということで、EMI、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみましたが、違和感はありません。ミカエル・ハイドンは、ヨーゼフ・ハイドンの弟ですが、ヴィオラチェロコントラバスのためのディヴェルティメントという珍しい構成の曲ですので、試聴対象に取り上げてみました。装飾音符のようなヴィオラとチェロとが対話し、コントラバスがバックで支えるという構図の曲です。ヴィオラとチェロは落ち着いた音色で、コントラバスも量感があり明晰です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上